

防衛省は工事を中止しろ！

玉城デニー知事は7月31日、4月に続き県独自の「緊急事態宣言」を発令しました。新型コロナウイルス感染症拡大を止めるために、県が定める4段階の警戒レベルを上から2番目の「感染流行期」に引き上げました。那覇市内の飲食店の営業時間の短縮、離島への移動自粛など事業者や個人に協力を呼び掛けています。

県は、県民の命を守ることを最重要として県政を運営してきたものの感染拡大は止まるどころか8月14日の新規感染者106人、累計1510人、死者11人と発表しています。このため那覇市、嘉手納町など南・中部地域の小学校が8月23日まで休校。特別養護老人ホーム、那覇市内の認可保育園、病院、警察署などでクラスターが発症し現在は県内12カ所となっていると発表されています。

県はこうした状況を踏まえて8月13日の対策本部警戒レベルを最高の4(感染まん延期)に引き上げ緊急事態宣言を8月29日まで2週間延長しました。8月18日、県内の累計感染者は1650人、人口10万人当たりの直近1週間の新規感染者数が33.77人で17日間連続で全国最多となっています。

知事の工事中止要請を無視する政府

これまで知事は、8月7日の記者会見で辺野古の新基地建設の工事関係者からコロナ感染者が確認されたことを受け政府に工事の中止するよう菅義偉官房長官に直接電話したものの、留守を決め込まれて無視され続けているとのことです。ちなみに、4月に工事関係者に感染者が出たときは6月まで約2か月間工事が中断されました。

しかし今は、米軍関係者の感染が日々拡大し、キャンプ・シュワブゲート前は海兵隊員、基地内を警護している日本人警備員、民間警備会社の社員、生コン車の運転手、沖縄県警機動隊員などによる「密」の状態になっています。いずれクラスターが発生するのではと不安にかられます。沖縄には米軍基地が70%以上も集中しています。基地内では何が起きているのか、政府も県も県民も知ることはできません。たとえ知ることができたとしても「軍事機密」の高い壁があり、これを乗り越えることはできません。「日米地位協定」が立ちふさがります。この協定により軍人、軍属、家族の日本への出入国は自由になっています。

戦後75年間の沖縄の歴史で、米軍人によるレイプ殺人などの凶悪犯罪、戦闘機やオスプレイ、輸送ヘリなどの墜落事故等で何人の県民が殺されたのでしょうか。そして今日、世界で一番感染者が多い米国内から軍人らが自由に出入りし、県民の命が脅かされています。県民はもうこりごりだ！米軍基地をただちに封鎖し、基地撤去を強く望みます。

連日200台以上のダンプが搬入

こうした状況にもかかわらず辺野古新基地建設はあいもかわらず強行され続けています。キャンプ・シュワブゲート前には連日ダンプ・生コン車などが1日200台以上、岩石、赤土、コンクリート、資材などの搬入を続けています。塩川港や安和栈橋からは1000台分の土砂が運搬船に積み込まれて辺野古海域に運ばれています。

安倍政権は新型コロナウイルス感染症への対策をすることもなく、沖縄県民の命を米軍に差し出すような工事を強行し続けているといえます。こんな県民、人のいのちを大切にしない政権は即刻退陣しろ！安倍政権打倒までがんばりましょう！

※辺野古の抗議行動は県独自の緊急事態宣言が継続されているため、9月6日まで中断しています。